令和３年度宇部市総合教育会議（第３回）　議事録

１　日　時　令和４年２月１６日（水）１８：００～１８：５０
２　場　所　オンライン会議　傍聴席　港町庁舎　３階　大会議室
３　出席委員の氏名
　　篠　﨑　　圭　二　市長
　　野　口　　政　吾　教育長
　　田 村　賢 二 郎　委員
　　山 野　あ い 子　委員
　　川　﨑　　裕　美　委員
　　重　村　　美　帆　委員
４　事務局出席職員
　　上村教育部長、床本次長、橋本次長
　　藤井施設課長、原学校教育課長、藤田教育支援課長、松本コミュニティスクール推進課長　半田学校給食課長、本多人権教育課長、石津学びの森くすのき・地域文化交流課長、山下図書館長、伊藤総務課副課長、平山総務課副主幹、河村総務係長
５　趣　旨

（事務局）橋本次長

ただ今から、令和３年度宇部市総合教育会議（第３回）を開催いたします。

今回の会議は、山口県まん延防止重点措置に伴う集中対策期間中であることから、新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、オンライン開催とさせていただきましたことをご了承ください。

本日の議題は「第２期宇部市教育振興基本計画（案）の策定について」です。

本日の会議の終了時刻は、１８時５０分を予定しています。

それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります篠﨑市長にお願いします。

（委員）篠﨑市長

ただ今から、令和３年度第３回総合教育会議を始めます。

これまでの総合教育会議で宇部市教育振興基本計画の基本理念・基本目標を定め、これを教育大綱として位置付けています。その後、教育委員会事務局や市長部局で教育振興基本計画の施策等を組み立て、随時、教育委員会会議等でご説明させていただいているところです。本日の総合教育会議では計画についてのご意見をいただき、ご審議、ご承認いただいた後、第２期宇部市教育振興基本計画（案）を確定させていただきたいと思います。

それでは、資料は事前にお配りして見ていただいているところですので、委員の皆様におかれましては、この計画についてのご意見を順次お伺いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、準備のできている方からお願いしたいと思いますが、田村委員、いかがでしょうか。

（委員）田村委員

田村です。よろしくお願いします。

各論の話ですが、体力向上と健康教育を推進します、となっていますが、この中で、健康教育が入っていないと思います。以前から私は強調して提唱してきたところですが、前は健康教育というとインフルエンザとか手洗いうがいをしっかりしていきましょうという話でした。その当時は冬だけの話でしたので年間を通しての健康教育にはつながらないということで、歯磨き指導、歯をしっかりみがいて虫歯にならないようにしましょう、これをもっと強調していきたいと言っており、これは季節に限らず年間通して自分の体を自分で守ろうということに繋がっていく、健康教育に繋がっていくということで言わせていただいておりました。しかし、今、コロナ禍においては、手洗い、うがいなどは年間を通してやらなければいけないと、完全に状況が変わっております。いずれコロナも収束していきますが、完全になくなるわけではなく、インフルエンザのように今まではｗｉｔｈインフルエンザでしたが、季節関係なくｗｉｔｈコロナということになると思いますので、やはり健康教育ということで感染症対策という項目が必要ではないかと私は感じています。

それからもう一点問題ではないかと思ったところがあります。先生方にお伺いしたアンケートの項目「宇部の良さを伝えることができていると思いますか」で、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた方が３人に１人いるというのは、どうかと思いました。宇部の魅力を自分で分かっていないのに、子どもに、例えば「わたしたちの宇部」を読んで宇部を大事にしなさいと言っても説得力がないと思います。ここも問題だと思いますので、宇部出身ではない方もおられるのかもしれませんが、先生方にも研修などで宇部の良さを分かっていただきたいと思います。その中で、「彫刻教育推進事業」ではアートを通して思考力を育み彫刻教育の充実を図りますと書いてありますが、これは、施策の柱としては「ふるさとを愛する心を育みます」の中に入っていますが、彫刻から郷土愛を育むという点が抜けていると思いますので、宇部の財産である彫刻を愛でる気持ちを育むということがシビックプライドに繋がっていくということも入れていただきたいと思います。この「アートを介して、観察力、思考力、他者を理解する心を育む」というところは、今盛んに提唱されている教育方法で、ＶＴＳ（対話型鑑賞教育）などと言われていますが、相手の考えている気持ちをくみ取ったり、思っていることを言葉に出して自分を表現する力を育んだりするのにとても良いやり方だということでこの一文を入れていただきましたが、それが、「ふるさとを愛する心を育みます」というところに入っていることに若干違和感はありますが、彫刻を愛でる気持ちを育むということを入れていただけたら良いのではないかと思います。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。では事務局からお願いします。

（事務局）橋本次長

まず、感染症についてですが、基本目標４で「新型コロナウイルスなどの感染症について学び、感染予防と自身の安全意識を高めるとともに、新たな生活様式などに対応した柔軟な学びへと転換を図っていく」と記載しており、総括的、また当然の取り組みであると意識しております。田村委員の言われるような個別の事業でもやっていかなければいけないという思いはありますが、教育全体で取り組んでいくべきものであると認識しているところです。

次に、宇部の精神（こころ）を知るところで、先生方の意識が低いのではないかとのご指摘ですが、それにつきましては、「１－５－１　宇部の精神（こころ）を知る事業」で、これまでもふるさと学習副読本などを活用して取り組んできましたが、今回の計画では、理念においても「宇部を愛し」と掲げておりますので、「１－５－１　宇部の精神（こころ）を知る事業」の取組を教員の中でも重要なこととして取り組んでいきたいと考えています。

３点目、彫刻教育の中において、「ふるさとを愛する心を育む」という項目にありますが、宇部の財産である彫刻を愛でるという気持ちは決して失うことはありませんので、これについては加筆する必要があるのではないかと考えています。

（委員）篠﨑市長

田村委員、いかがでしょうか。

（委員）田村委員

健康教育という言葉が掲げられているのに、その下の事業の中で一言も触れられていないというのはいかがかと思います。大きな柱に記載されていると言えばそうかもしれませんが、個別の事業でも触れておいた方が良いのではないかと私は思いましたが、いかがでしょうか。

（委員）篠﨑市長

他の委員の方からご意見ありますか。重村委員、お願いします。

（委員）重村委員

田村委員さんご指摘の健康教育ですが、そもそも小中学校で実施されている健康教育というのは、どのような内容が含まれているのでしょうか。

（事務局）橋本次長

こちらに含まれる健康教育の内容は、子どもたちの日々の、保健的健康の管理というのもありますし、それより深い部分で、メディアなどの対応も含んでいます。健康教育ということでは子どもの体力面でということもありますので、この項目では子どもの健康ということを広くとらえて、健康に関係するところはこちらですべてを含んでいるものです。

（委員）篠﨑市長

田村委員から健康教育についての施策を入れるべきではないかというご意見をいただきましたが、教育長はご意見ありますか。

（委員）野口教育長

田村委員からご指摘があった内容については、基本理念の説明文にも入っていますが、今、大切な部分でもありますので、また、国の「令和の日本型教育」の中でも健康という点は、新型コロナウイルス感染症対策という項目を作っているくらいです。その辺りを踏まえると、個別事業の中でも少し触れても良いのではないかと思いますので、事務局で検討してほしいと思います。

（委員）篠﨑市長

それでは、田村委員のご提言、また教育長からのご意見も踏まえまして、この課題についてはこの事業の中に項目を作るということで整理させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

（意見なし）
（委員）篠﨑市長
　ありがとうございます。
　それでは、私の方からも、１－５－１について、「ふるさとを愛する心を育みます」で、先生方が宇部市のことをご存じないということは、大きな課題ではないかと私自身は捉えています。先程事務局はこの中に含めるという話でしたが、では具体的にどのような形にしていくのかということを、「子どもも先生も」というような文言を入れた方が良いのではないかと思います。ここは、社会教育の部分も含んでくる、宇部市民全体も含んでくるという意味では、入れた方が良いのではないかと思っておりましたが、皆様はいかがでしょうか。事務局から何かありますか。
（事務局）橋本次長
　市長のご提言のとおりでよろしいのではないかと思いますので委員さんの承認がいただければそのとおりにしたいと思います。
（委員）篠﨑市長
　それでは、「宇部の精神（こころ）を知る事業」の部分に、現状のアンケート結果も踏まえた上でその対象者について入れるということで整理させていただくと言うことでよろしいでしょうか。
（意見なし）
（委員）篠﨑市長
　ありがとうございます。
　続きまして、「１－５－３　彫刻教育推進事業」については、彫刻を愛するという趣旨の文言を入れるという整理でよろしいでしょうか。
（委員）田村委員
　ありがとうございます。先生方にこそ彫刻というものを知っていただきたいと思っています。
（委員）篠﨑市長
　ありがとうございます。続きまして、山野委員、お願いします。
（委員）山野委員
　全体的に、初めの素案と比べた時に、基本目標の、実現に向けた現状と課題のところが、現状と課題と分けて記載されているのでとてもわかりやすくなりました。それから、ＳＤＧｓのことが、素案では環境問題に特化していて、それが疑問でしたが、それぞれの施策の展開で基本目標ごとにＳＤＧｓのマークが記載されていたので安心しました。もし可能であれば、各施策の取組に個別に記載されればどこに特に何が関連するのか、よく分かるのではないかと思いました。それから、分からない言葉、例えばレスパイトという言葉が欄外に説明文として載っており、色々な言葉について同様に、市民の皆さんがわかりやすくなると思いました。それから、「第５章　計画の推進にあたって」でロジックモデルが示されていますが、これは、この課題に取り組んだらどんな成果があるのか、とてもわかりやすいと感じました。それが大きなところです。
　次に、細かいところですが、今まで何度か言いましたが、今までの宇部市の「学び合い

を通して生きる力を育みます」というところで、今までの成果と課題についてですが、例えば施策の柱１－１の文章は今までかなり修正していただきました。なぜ今まで宇部市が学び合いに取り組んできたか、それが少し分かるように書き直してもらえたと思います。それからやはり気になるのが、同じところで、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」で児童生徒の気持ちの割合が全国平均に比べて下がっているということを、ここで強調されていますが、私の所感としては、宇部市は今まで本当に、常にペアやグループなど、そういう学習形態を使ってやってきているので、とても子どもたちの意識が高かったと思っています。それが、今回コロナで、そういった学習形態ができる機会が以前に比べて随分減ってしまった、給食も前を向いて食べないといけない、という状況で、１・２年生でも机をくっつけていません。それが、子どもたちが今までに比べたらできていないと感じているのだとしたら、全国平均が下がっているからといっても、今回は特別な事情があったと思っていますので、コロナの影響ということを入れてくださいとお願いして入れていただきました。それから、基本理念で「学び教え合いながら」という文言が入っていますが、どうしても私には抵抗があります。「教え」というところを外していただきたいです。今まで宇部市でやってきた学び合いは、もちろん自主的に教えてと言う場合は教え合いだと思いますが、実際教師の立場、視点だと分からないことは聞くということで今までやってきています。分からなかったら聞くこと、自分で乗り越えることが大切なのだということです。学び合いの講師からは、「分からなかったら教えてあげて」という言葉は使わないように、という指導を受けてやってきています。「分からない子に教えてあげて」と言うと、分からない子は教えてもらうのをずっと待つようになるという指導を受けました。それで、自分から教えてほしいと言うのは良いですが、そうではなく、最初から教えなさいとか、友達に教えてあげてとか、そういう持っていき方は学び合いではしないと言われてきていますので、ここの「教え」という言葉を外していただけると良いと思います。どうしてもそこに何か言葉を入れたいのだとしたら「学び支え合い」とか「学び合いつながり合い」とか違う文言に変えていただくと良いと思います。これは後ほど教育長にも聞いていただけたらと思います。もしかしたら私の認識違いかもしれません。

それから、施策の柱１－４ですが、前回の教育委員会会議で進学先の中学校が分かれている小学校のことが問題としてあげられました。進学先の中学校が分かれている小学校では、進学する中学校によってめざす子ども像などの取組が違うので系統的な教育が難しいということを前回の教育委員会会議で言われました。そのことをここへ入れた方が良いのか、入れると中学校区の再編成に関わってくるのでここへは入れない方が良いのか、どちらが良いのか分かりませんでした。

最後に、「２－１－２　いじめ対策推進事業」で１人１台端末を活用したＳＮＳによる相談機会の拡充とあります。困った時に誰もがいつでも気軽に相談できる体制に、と書いてありました。それは本当に大事なことですが、そこに「1 人 1 台端末を活用した」と入れてしまうと、学校にタブレットがあっても子どもたちが困った時に相談できるわけではありませんから、やはり、こっそり相談をＳＮＳに書き込むのだったら、家にタブレットを持って帰って自分が困った時に書き込むという形になると思いますので、タブレットを毎

日、あるいは毎週持って帰ることが前提になってしまいますが、そこはどうなのか気になりました。

（委員）篠﨑市長

山野委員からのご指摘、特に文言変更に関するものとしては、「学び教え合い」の表現のこと、また施策の柱１－４の課題の部分、２－１－２のタブレットの部分、この３点ということでよろしいでしょうか。

まず「学び教え合い」ですが、後ほど教育長にご意見いただきたいと思いますが、まずは事務局からなぜ「学び教え合い」という表現になったのか、説明をお願いします。

（事務局）橋本次長

基本理念の中で「自立」と「共存同栄」という形で、自分と、また共にという両方の観点を理念に掲げています。その観点を踏まえて、自分が自分で学ぶということ、お互いに、共に学び合う、教え合うという意味を含めて、「学び合い」「教え合い」という二つの言葉がくっついた形で「学び教え合い」という表現をさせていただいたものです。

（委員）篠﨑市長

それでは、教育長、「学び合い」について今までの教育現場での扱いですとか、そういったことについてお話しいただければと思います。

（委員）野口教育長

今まで行ってきた「学び合い」は、山野委員が言われるように教え合いではなく聞き合う関係づくりでした。聞き合うというのは受け身ではなく自主的・自発的・自立的に、ここが分からないからこれはどうなっているのか、と聞き合う関係を主にしてきました。ですから、教え合いというのも今から当然大事になってきますが、ここで出すのであれば「学び合い、支え合い聞き合う関係づくり」とか、そういった言葉の方が良いのではないかと思います。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。委員の皆様からご意見ありますか。よろしいですか。

事務局の説明では、基本理念からという部分があるのと、私も今の議論を聞きながら、今ここにおられる方は今までの歴史とか現状とかよくご存じの方だと思いますが、全く知らない方が始めてこの「学び合い」という言葉を見た時に、きちんと今教育長や山野委員が言われたような意味が伝わるか、私は若干疑問を感じていましたので、もしかしたら、先ほど言いましたが共存同栄についてページの下に記載されていますが、学び合いについても、宇部市の良さというところですので、説明文をつけた上でこの理念の説明の部分に「学び合いながら」という表現としたら良いのではないかと思いましたがいかがでしょうか。よろしいですか。

（意見なし）

（委員）篠﨑市長

それでは、そういう形で整理させていただければより学び合いのすばらしさも伝わると思いますので進めさせていただければと思います。

続きまして課題の部分ですが、こちらに関して事務局からお願いします。

（事務局）橋本次長

就学の学校についての山野委員からのご意見ですが、この点につきましては、当然ここの課題ではありますが、前回の教育委員会会議でご説明させていただたいたのは適正規模・適正配置に関する議論の中でお話ししたものです。当然ここで考えていくべき課題ではありますので、別のページ、施策の柱４－２に適正規模に関する事業の記載があります。こちらの取組の中で考えていくことであろうと考えておりまして、基本目標４で現状と課題の一つとしてあげています。先程言われた内容はこちらではないかと思います。細かいところはこれから議論していく課題であり、施策の柱１－４に記載するのはそぐわないのではないかと思います。大きな流れの中で整理させていただければと思います。

（委員）篠﨑市長

山野委員、いかがでしょうか。

学校の適性規模・適正配置につきましては、新年度からしっかり議論を積み重ねていこうというところで、山野委員からご指摘いただいた課題はその中の現状の大きなデメリット、ポイントの一つでもあると思いますので、これにつきましては適正規模・適正配置の中でしっかりと課題抽出をさせていただいて議論していくという、今事務局が説明した形でよろしいでしょうか。

（意見なし）

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。委員の皆様からご意見ありますか。よろしいですか。

（意見なし）

（委員）篠﨑市長

それでは、続きまして２－１－２のタブレットの件ですが、事務局から説明をお願いします。

（事務局）橋本次長

タブレットを持って帰らなければならないのではということで、確かに手法としてここに書いてはありますが、実際には少し問題があるのでは、ということはご指摘のとおりかと思います。担当課とも相談しまして適切な表現については検討したいと思います。

（委員）篠﨑市長

事務局でここの表現を検討させていただければと思います。

（委員）野口教育長

今の件ですが、１人１台端末が入って、この２学期くらいから大変頻繁に使うようになって、実際持ち帰っている学校も多くあります。今回それで大変な威力を発揮しましたのがコロナ対応です。学級閉鎖、休校になった時に持ち帰っている学校はすぐにでもオンライン学習、オンライン授業ができました。私たちは、来年度以降、宇部市のスタンダードとして持ち帰りを基本としたいと考えています。ただ、これはまだ校長会とも協議しないといけませんが、とにかく、せっかく文具として扱っているタブレットですので、常に鞄の中にある、学校に行ったら鞄から出せる、家にも持ち帰れる、それを基本としていけば更に、このＳＮＳの問題についても家に持ち帰って相談できる、そういうことに繋がっていくと思いますので、表記については先ほど事務局が言ったように検討させていただきますが、今こちらはそういう考えで進めていきたいと思っています。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございました。山野委員、よろしいでしょうか。

（委員）山野委員

はい。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。それでは続きまして川﨑委員、お願いします。

（委員）川﨑委員

全体的な感想としては、分からない言葉に注釈がついていて、誰が見ても分かるようになっているので良いのではないかと思いました。前回の宇部市教育振興基本計画を振り返りながら新しいものがこうやってできていくのだと実感して、これから先、毎年事務の点検評価をしていくと思いますが、もっと具体的なことができるのではないかととても楽しみにしているところです。

個別のところでは、基本目標別の主な成果と課題で、振り返って成果を出して課題を出しながら次につなげていくということは分かりますが、成果のところがあまり具体的な、学力の向上につながりました、学習支援などに取り組みました、という書き方になっていて、読んでいると、課題を出してくるのは分かりますがマイナスなイメージがあって、第1期基本計画では成果がでなかったのかと少し不安になるようなところがありました。先生方もとても頑張ってやってこられましたし、もう少し成果を、できた部分を評価してほしかったと感じました。

新しい計画の施策の柱で重点的取組「７　訪問型家庭教育支援事業」、「８　コミュニティ・スクール推進事業」、「９　社会教育推進事業」となっていますが、私が一番関わっているところで、今まで学んできた家庭教育アドバイザー、地域教育ネットコーディネーター養成講座が生かされていくのではないかと思っています。今から力が試されて地域の力が必要になってくるところなのかと思って、今までのつながりをこれからもつなげていくとことと、後継者をどうやって育てるかが今頑張らなければいけないところだというのを実感しました。地域のつながりや学校の取組というのはとてもよくわかりますが、学校・家庭・地域の家庭がどのように関わっていくのか、というところが少ないのではないかと感じました。保護者の方自身が社会の変化についていくのが精一杯で、子どもたちの具体的なところまで力が及んでいないのかというところで、家庭がどのように関わっていくかは、それぞれの施策の中で毎年見直して具体的な関わり方を見つけていければ良いのかと思っています。そのような中でも社会教育関係団体支援事業で宇部市ＰＴＡ連合会と入っていて、ＰＴＡという言葉を入れていただいたことに感謝しています。今、ＰＴＡの存在意義が問われている中でこの文言を入れていただいてＰＴＡという団体が存在意義としてあるのだと宇部市に認められたような気がして、とても嬉しく思いました。

ＧＩＧＡスクール構想推進事業で、「新型コロナウイルス等による学級閉鎖や臨時休校時の学びを保障するため、全家庭でオンライン学習ができる環境を整えます」とあります。学童保育の子どもたちは毎日タブレットを持って帰って、おそらく宿題がタブレットで出ているのだと思いますが、学童ではオンライン学習ができる環境が整っていませんので子どもたちは、宿題ができないとよく言っています。低学年はありませんが、３年生以上の

子どもたちが学童では宿題ができないと聞いていますので学校と家庭以外でも学習しているということも知っておいていただきたいし、そのための環境も整えていただきたいですし、予算が許せばＬＴＥタブレットについても今後考えていただけたらと思います。

（委員）篠﨑市長

それでは、事務局からお願いします。

（事務局）橋本次長

過去を振り返って、成果があまり具体的に記載されていないのではないか、もう少しできたところを出してほしかったとのご意見ですが、７ページで全体の達成度についてはほぼ達成できたのではないかという数値を出しています。今回の計画では違いますが、前回は達成感を表す文言が明らかではなかったのかというところがありますので、今回の計画では、ロジックモデルなどにより取組からアウトプット、アウトカムを明らかにすることで達成度が皆様にわかりやすい形になっているのではないかと思います。

地域のつながりという点につきましては、宇部市はこれから共創というまちづくりを行ってまいりますので、教育においても学校だけでなく地域や保護者、全ての方とともにお互いに協働してやっていきたいと考えておりますので、そこは委員さんのご意見をしっかり認識していきたいと思っています。

最後にＧＩＧＡのところですが、オンラインの状況については現状を把握しながら取り組んでいければと思います。

（委員）篠﨑市長

川﨑委員、よろしいですか。私も成果のところ、できたところをしっかり書いても良いのかと改めて思いましたが、成果についての記載を増やすということはどうでしょうか。

（委員）川﨑委員

今から増やすのは難しいでしょうか。

（委員）篠﨑市長

若干の文言修正はまだ可能かと思います。

（委員）川﨑委員

かなりマイナス思考に感じますので、もう少しプラス思考も加えていただけると良いかと思います。

（委員）篠﨑市長

それから、学童のルーターについては喫緊の課題として市長部局でも対応していきたいと思います。

（委員）川﨑委員

よろしくお願いします。

（委員）篠﨑市長

それでは、重村委員、よろしくお願いします。

（委員）重村委員

よろしくお願いします。

私は一点です。これは、皆さんに伺いたいことなのですが、施策１－３－１で、小中学校でのノーメディアデーを実施するとありますが、この「ノーメディアデー」という言葉

を使用するのは、今の時代には逆行していると感じます。それよりは、ページ下部の注釈にある「メディアコントロールデー」という言葉に置き換えられたら良いのでは、と感じています。既に、ノーメディアデーという言葉は、インターネット初期、まだ使用している私たち自身が慣れていない時に出てきた言葉だと思います。既に子どもたちの中では、先ほどの１人１台端末もありますし、１人１台スマートフォン、ゲーム機といった機器類があふれている中で、ノーメディアという子どもたちにメディアに否定的な感情を持たせるような言葉を使って実施されるのは、逆にＳＮＳを使ったいじめなど、少し陰湿な方向に子どもたちに印象付けるように感じてしまうので、賢く利用・活用する、生活に必要な一部、道具として自分たち自身が管理できる、コントロールできるものとして、教育していく、そういう形に、メディアの捉え方を変えていくと良いのではないかと思います。もう制限するものではなく、こちらが使っていく、利用していくものだと位置付けで、ノーメディアデーという言葉はここでは使用しなくて良いのではないかと感じました。特に、コロナ禍を経験していく中で子どもたちも親も外出が制限される中で、かなりタブレットを使って学習したり、体力向上に向けたアプリなど使用してストレッチをしたり、実質的には生活に即した使い方をもう皆さんされていますので、少しここは考えていただければと思います。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。委員の皆様からご意見ありましたらお願いします。

（意見なし）

（委員）篠﨑市長

私もその通りだと思いました。ノーメディアということ自体が少し時代から離れているような感じはしましたので、委員が言われるようにメディアコントロールであるとか、そのような表現に変えていったらよいのではないかと思います。この文言については事務局と調整させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

（意見なし）

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。では、こちらで言葉を変更させていただきます。

続きまして、教育長、お願いします。

（委員）野口教育長

私からは、簡単に２点ほどお話しさせていただきます。

施策の体系が示されていますが、こちらにつきましては、先ほどもお話ししましたが、国が、「令和の日本型学校教育」という新たなものを１年前にうちだしています。例えばＩＣＴの推進、いじめ、不登校、特別支援、その辺りも踏まえて今日の学校教育に必要なものをあげています。それが、今見た限りではほぼ網羅されている、特に重点の中にそれが全て入っていると私は思っています。この計画策定にご尽力いただいた方に心から感謝いたします。それで、一番今から大切なことは、先ほど田村委員が言われましたが、我々の施策が学校に届いているか、どう届けていくか、というところだと思います。例えば、国には国の教育振興基本計画があります。県には県の教育振興基本計画があります。学校の先生は知っていますか。知らないと思います。我々もあまり知りません。でも私たちは、

子どもたちや地域住民に一番近い市の自治体の教育行政ですので、この基本計画を必ず子どもたちに、地域住民に届けなければいけない、周知啓発をどう工夫していくか、これに今から汗をかいていかなければいけないと思っています。昨日校長会がありまして、私は早いうちから令和４年度の学校教育ビジョンや経営方針を立ててくださいとお願いしました。その時に、この計画が校長の手元に届いていないとまた旧態依然のものになってしまいます。ですから、できるだけ早くこの計画を学校に届けて校長先生方を初めとして、教職員に理解していただいて、令和４年度教育に反映できるように、これを力強く進めていかなければいけないと思っています。当然社会教育もそうですし、図書館運営もそうですし、文化財行政も、まさに関係機関に早く届けていただいて、令和４年度の行政に生かしていただけるように、そういう努力をしていただければと思っています。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございました。それでは、委員の皆様からご意見をいただきましたので、私も市長として意見を述べさせていただきます。

今日も委員の皆様から活発なご意見をいただき、本当にありがとうございました。総合教育会議ということで、委員の皆様から様々なご意見をいただきながら進めてまいりましたが、昨年度から、教育長の力も借りながら、できるものから色々な部分で施策を進めているところです。私はこの総合教育会議で最初に申し上げたと思いますが、計画は作っておしまいではなく、計画によっていかに子どもたちの教育環境がより良くなったか、市民の皆様の生涯教育の環境が良くなったか、そこに尽きると思っています。そういう意味では先ほど山野委員からもご指摘いただきました、ロジックモデルで、どういうインプットをしてどういうアウトプットを出して結果としてアウトカム、世の中にどのような成果が出たかというところを重要視しているところです。今までなかなか行政の施策や計画ではここを明確に論理的につなげるということはしていませんでしたが、ここを明確化いたしました。しかし、これをアウトカムまで実践し、つなげていくためには先ほど教育長が言われましたが、まず現場の先生方、ご家庭、そして社会全体、宇部市全体としてこの計画をご理解いただいて、一人ひとりがプレイヤーとして教育環境を整えていかなければいけない、という意味で共創です。一緒に教育環境をより良くしていくのだということについて、市民お一人おひとりにかかっていると言っても過言ではないと思っています。

これからも委員の皆様のお力を借りながらロジックモデルでチェックをしていきながら教育環境の向上に努めていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここで採決に入りたいと思いますが、他に委員の皆様からご意見ありますか。

（委員）田村委員

もう一つだけ言っておきたいことがあります。

私は今もう子どもも大きくなりまして、子どもたちとは地域の一員として触れ合っていて、朝の見守りをしています。１５０人程度の子どもがいるところで、私は挨拶をしていますが、半数くらいは挨拶が返ってきません。無視して素通りする子も結構いて、自分から挨拶する子は数人で、ちょっと悲しく感じているところです。それで、子どもたちはそ

こで皆が待ち合わせをして学校に行っていて、待ち合わせの時に普通「おはよう」とか言うのではと思うのですが、それも聞いたことがないと、最近気が付きました。これは挨拶をしていないのか、挨拶はどうなっているのかと、思いました。学校へ行って先生方へは挨拶していると思いますが、普段の生活の中で挨拶をしているのかと思っています。挨拶は、その人の存在を認める一番大事な行為だと思います。今、自己肯定感が低いと言われていますが、自己肯定感を上げることにもつながりますし、承認欲求という部分でも、自分を認めてほしい、それはまず存在を認めてから始まるということになると思います。少し乱暴な言い方をすれば、社会から孤立した人が色々騒がせたりしていますが、少々勉強できなくても挨拶がしっかりできていたら社会に出てもしっかり生きていけるのではないかと私は思っています。毎朝見守りをしていますが、見守りをする方も挨拶が返ってこないので辛いと思いながらも、いずれ挨拶をしてくれると信じてやっているところです。それで、犬の散歩や買い物などを下校時間に合わせてやりましょうということをよく言っていましたが、犬の散歩の時に子どもたちとすれ違って挨拶したら子どもたちはそれも無視して通り過ぎていくので、あえて子どもたちがいない時間に散歩をしているという話も聞きました。これは問題ではないかと思いました。本当に、挨拶は一番大事なことではないかと思います。気持ちいい挨拶ができる人は人間力がある、愛される人、また会いたいと思う人だと思います。そういった人に育ってほしいと思っているのですが、これをどこかに項目として入れるのか、教育なのか、人権なのか、新しい項目を増やすのかは分かりませんが、この計画のどこかに入れ込めないかと思ったところです。マザー・テレサ曰く、「愛の反対は無関心」ということですので、お互いを認め合える子どもたちになってほしいという希望からの要望です。

（委員）篠﨑市長

挨拶しない子、できない子というのは確かにいますが、一方で我々世代は、知らない人に声をかけてはいけないと言われていました。我々世代と言いますか、私はそういう教育を、あまり知らない方に挨拶をすると巻き込まれるリスクがあると言われてきました。同世代のお母さんたちに聞くとやはり地域で色々な方に声をかけて逆にそれが誘因になるリスクがあるのではないかという声があるのも事実だと私は捉えています。挨拶の良さについては、私自身はすごく分かっている上で、逆にそれを心配する声もあると思っています。そこは教育委員会としては、実際のところはいかがでしょうか。

（委員）野口教育長

市長が言われることも田村委員が言われることも両方よく分かります。１０年２０年前は不審者ですとか学校の安心安全で、知らない人に声をかけないようにしよう、となっていました。それ以前は開かれた学校づくりをしていましたが、事件があってからは閉ざされた学校になりました。非常に難しいと思います。ただ、これだけは言えるのは、子どもは社会を映す鏡だということです。保護者を、親を、大人を映す鏡、また教員を映す鏡でもあります。だから、そういう大人が挨拶をしない方が良いと言えば子どもは挨拶をしないということになるでしょうけれど、学校教育として、教育委員会としては、挨拶ができる、そしてその地域ぐるみで挨拶運動に取り組んでいただけるような、そんな地域、学校、家庭をめざしていきたいという思いはあります。難しいところだとは思いますが、そ

のために今地域・家庭・学校が一緒になって色々な取組を行っていますので、ぜひ挨拶運動は今後も進めていきたいと思っています。計画に入れるかどうかは事務局で検討していただければと思います。

（委員）篠﨑市長

治安の部分については、市行政としても必ず担っていかなければいけない責任であると思いますし、地域の方々が声をかけあう世の中、これがありたい姿であると思いますので、それに向けて、やはり挨拶というのは先ほど田村委員が言われたように、無関心ではなくお互いに気にかけていると、支え合うとか、それこそお互いに学び合う、ではないですがお互いに意識し合っているということですので、近い文言をどこかに入れられるような形で、先ほど私があえて言わせていただいたのがそういう部分があるので言わせていただいたというところです。

山野委員、何かありましたらどうぞ。

（委員）山野委員

私も見守りで立っていますが、先ほど田村委員が言われたのは、知っている人、いつも立っている地域の人たちに対しても挨拶ができていないということではないかなと思いました。私の校区は、学校運営協議会に子どもたちが参画しています。中学校で生徒会が学校運営協議会に参画して、地域のバックアップを受けながら自分たちで提案していて、それに小学生も憧れて、小学校でも学校運営協議会に６年生が参加するという形でやっているのですが、随分挨拶は変わりました。ですから、自分たちがやる気になる、自分たちが仕掛けを作っていく、そういう挨拶をしてくれるので、うちの校区の挨拶は数年前に比べると比較にならないくらい子どもたちがよく挨拶をするようになりました。それでもできない子はやはりいますが、口の中で言っているかな、とか、今日はこの子は調子が悪いのだな、という感じで見ています。

（委員）篠﨑市長

ありがとうございました。

この、挨拶については一旦事務局で預からせていただいてもよろしいでしょうか。

他にご意見等ありますか。よろしいですか。

それでは、審議も尽くされたようですので、このたびの宇部市教育振興基本計画（案）につきまして、本日ご指摘いただいた部分を修正することを前提にご承認をいただきたいと思いますが、ご承認をいただける委員の皆様は挙手をお願いします。

（全員承認）

（委員）篠﨑市長

ありがとうございます。

それでは、本日ご指摘いただいた点について加筆または修正等を行い、「第２期宇部市教育振興基本計画（案）」を３月末に公表し、令和４年度から、本市の教育がめざす基本的な方向や今後推進すべき具体的施策を明らかにし、基本理念であります「「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓くひとづくり」を進めてまいりたいと考えております。

委員の皆様、本日は本当にありがとうございました。

以上をもちまして第３回総合教育会議を終了いたします。